

令和2年度 GLEP 海外インターンシップ報告書

学部：環境人間学部

学年：4年

対象国：アメリカ

場所：兵庫県ワシントン州事務所

氏名：麻田英理

期間：2週間

(1/4～1/21 土日祝を除く

1日5時間 計50時間勤務)

● インターンシップ参加の動機

私は大学卒業後に大学院に進学することが決まっていたのですが、新しい環境に進む前に自分を一回り成長させるようなチャレンジがしたいと思い、このインターンシップに参加しました。グローバル化が進む中、実際に海外の企業や団体で勤務される方とインターンシップという形で関わりを持つことは、私が今後社会に出る上で貴重な経験になると思いました。

● インターンシップの内容

業務内容はHP掲載用の兵庫県のPR記事を英語で作成すること、Instagramを使って英語で兵庫県のPRをすることでした。業務連絡はSlackというツールをメインに使用しました。業務開始時と終了時は必ず挨拶をすることがルールでした。時差があるため、勤務時間5時間のうち2時間はSlack上で現地の方と連絡をとり、あとの3時間は個人での作業でした。作成した原稿はGoogle Driveで共有して、ネイティブの方に添削していただきました。以下が今回の期間で作成した記事の詳細です。

[HP]

1) General Information

兵庫県についての概要

多様な気候、文化などがあることや兵庫の発祥について記載

2) Location and Geography

兵庫の地形について。兵庫を5つの地域（阪神、播磨、丹波、但馬、淡路）に分け、それぞれの土地や特徴について記載

3) History

兵庫県の歴史について代表的な出来事を具体的に挙げながら順番に記載

兵庫県の始まり→甲子園球場の完成→阪神淡路大震災→明石海峡大橋の完成→丹波竜の発見→コウノトリについて→兵庫県内にあるテクノロジー施設について

4) Cities and town

兵庫を5つの地域に分け、それぞれの都市について規模や特徴などを記載

5) Industries

兵庫県全体で行っている産業の特徴について記載

特に漁業、農業、観光業を取り上げて具体的に記載

6) Education

兵庫県が独自で行っている“体験学習”についての記載

兵庫県立大学の簡単な紹介

7) Culture

下記の兵庫県の代表的な文化について具体的に記載

淡路人形浄瑠璃、宝塚歌劇団、けんか祭り、十日えびす、春節祭り

8) Students from Hyogo

インターンシップを通しての感想を作成

9) Visit Washington

ワシントン州の観光地の紹介（英語から日本語への翻訳原稿の添削）

[Instagram]

日本の成人式、六甲山の夜景、夜の姫路城、1.17 鎮魂の祈り、有馬温泉

について、計5つの投稿

また、1/8、1/15の8:00(日本時間)から一時間程ワシントン州事務所関係者の方々とZoom会議を行いました。HPを作成するにあたっての役割分担や、出来上がった原稿についての確認、原稿を作る際の注意点（写真や引用の著作権）、SNSの活用の仕方、アイデアの提案等を行いました。記事を作る際に載せる著作権フリーの写真の確保について議題に上がったので今までに撮った兵庫の風景等を共有ファイルに提供しました。



(実際のZoom会議の様子)

● 学んだこと、得たこと

自分が作成した原稿をネイティブの方に添削していただくことで、実際に使われている自然な英語を知ることができました。自分が書いた原稿が添削されるため、違いを実感できる上、目に見える形で残るのでゆっくりと理解、納得ができてとても新鮮でした。また、ビジネスの雰囲気や日本とアメリカでは全く異なるなど文化の違いも実感しました。さらにオンラインで業務を行うためにSlackやGoogle Driveなどのツールを使用していたので、ビジネスシーンでの使い方を自然と学ぶことができ、最初は不慣れだったツールや機能も最終的に使いこなすことができました。

兵庫県をPRするにあたって調べものをしていく中で、兵庫県のことをより深く知ることもできま

した。日本の中で兵庫県の特徴的なこと、今までに訪れたことがない兵庫の観光地、歴史や兵庫県の成り立ちをどのようにPRしていくことが効果的なのか、ということも考えながら一人で原稿を作成したので自分でアイデアを考え出し、組み立て、それに責任感を持って取り組むことができ、自分のキャパシティが広がったと感じています。

- **印象に残ったこと**

事務所内の雰囲気がとても明るかったことが印象に残りました。私は日本でいくつかのアルバイトをしてきましたが、日本人は堅苦しい挨拶や謙遜、へりくだりが基本で、それが一般的だとされていますが、インターン中は原稿を作成する度にねぎらってもらうなど、お互いを尊重して褒め合う習慣が自然とありました。一例をあげると、日本人なら「お疲れさまでした、お先に失礼いたします」という場面で、アメリカ人は“Have a good evening.”と言います。使われ方はほとんど一緒だと思いますが、日本で暮らしている私にとって、アメリカ人の挨拶は印象がよく、窮屈な感じがなくていいなと思いました。このような雰囲気が全体にあり、文化の違いをととても体感しました。

- **苦勞したこと**

業務連絡や共有事項のほとんどをSlackというツールを使っておこないました。Slackはコミュニケーションを文章でとる、LINEに近いツールであったため、メールとは違いとにかく会話のテンポが早かったです。手振り身振りが使えないので、相手からの連絡事項を正確に理解して、自分の意見もきちんと英語で書かなくてはならなかったのが、慣れるのに苦勞しました。特にネイティブならではの表現の理解、アメリカのビジネスシーンに適当な文章作りが求められて、普段英語を使っていなかった私はテンポの早さに圧倒されていました。

また、Zoom会議もネイティブの方々の英語はスピードが速く、ついていくのが大変でした。世間話やジョークになるとさらにスピードアップして、他のメンバーは笑っているのに私はほとんど話を理解できていない状況に置かれたこともあり、自分の力不足を痛感しました。

- **インターンシップ参加に当たって必要な語学力・スキル**

今回のインターンシップの業務は文章を使った英語のやり取りが必須でした。身振り手振りが使えない上にある程度のスピードでやり取りをしなくてはならないので、普段の生活の中で英語に触れる機会を設けるなどして、英語に慣れておく必要があると思いました。難しい単語や文法が使われるわけではありませんが、学校の授業などで習う英語ではなく、ネイティブが使っている英語（海外ドラマなど）に慣れておくといいと思いました。業務連絡用に使ったSlack、Google Drive、Instagram、Zoomは使いこなすのに特別なスキルは必要ないと思いますが、使ったことがないものは事前に使っておくとスムーズに作業ができると思いました。

- **この経験を今後どう活かしていくか**

語学力の面では、まだまだだなと感じたことを忘れずに積極的に英語を使う場面を作って精進していきたいと思います。また、体感した文化の違いを忘れず、広い視野を獲得し続けたいと思います。

す。将来社会に出たときは、大学院で修得した自分の専門分野に加えてグローバルに対応できるような人材を目指していきたいと思います。

- **後輩へのメッセージ**

今回のインターンシップは初めてのオンライン開催で、前例がないうえに1人での参加だったため最初はとても不安でした。しかし、国際交流機構の方、ワシントン州事務所の方がしっかりサポートしてくださり、最後まで安心して、楽しく業務を行うことができました。私は最初から英語が得意なわけではなく、申し込みをする段階でかなり足踏みをしていたのですが、過去の報告書に書いてあった「興味があったらとりあえずやってみて」というメッセージをみて、思い切って申し込みをしました。結果、本当に得られたものが多くて、あの時、チャレンジをしようと踏み出してよかったと心から思っています。

皆さんも少しでも興味があったら、とにかくチャレンジすることをお勧めします。インターンシップまでの準備期間も含めて、とても貴重な経験をすることができました。今振り返っても文章では伝えきれないほどの満足感、達成感でいっぱい、参加前に期待していた以上のものを得ることができたと実感しています。